

まえがき

今回の自己点検・評価報告書は、津山工業高等専門学校（津山高専）において第6回目の発行となります。本報告書が対象とする年度は、平成25（2013）年度から平成30（2018）年度の6年間です。

津山高専の学習・教育目標は、科学的思考を身につけた実践的・創造的技術者の養成であり、この目標に向けて教育研究環境の整備と教職員の能力向上に努めています。本校は岡山県北地域に立地する理工系高等教育機関としては唯一であり、地域からの期待が高く、地域に対する役割も大きいと考えます。これに応えるため教育研究体制や施設の整備を進めてきました。平成28（2016）年度に実施した学科改組では、既存の専門分野である機械、電気電子、電子制御、情報工学科に生物・化学を含む基礎科学分野を追加して一つの学科「総合理工学科」へ再編・統合しました。この新学科では、異分野融合力とその基盤となる基礎科学をしっかりと学ぶことができ、卒業生の活躍の場がこれまで以上に広がることが期待されます。

本校は国際交流やグローバル教育にも力を入れており、中国地区高専学生国際交流支援コンソーシアムの事務局として、また、平成28年度から平成30年度までの間、グローバル高専事業の中国・四国地区拠点校として、日本人学生の海外派遣や海外学生の受入れなど、海外の協定大学と連携した国際的な研修やグローバル教育に取り組んできました。平成30年には、CDIOに加盟したほか、SDGsに関し地域の大学と連携した取組を始めました。地域の課題解決と技術革新の推進のための取組では、平成28年に「つやまイノベーションセンター」を設置し、本校の研究開発力の向上や組織的研究人材育成、地域活性化などを推進しています。平成30年に国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）のジュニアドクター育成塾事業に採択され、地域の小中学生の人材育成にも取り組んでいます。

施設・設備面では、学生寮の耐震改修工事を進め、5つの寮棟のうち1棟の新築、寮食堂の改修が完了したほか、学科等再編推進経費等により新分野である基礎科学の実験を可能にする設備の充実を図りました。

本校では「教育システム点検委員会」を設け、自己点検・評価を継続的に行うとともに、外部の第三者からの評価や意見を仰ぐための津山工業高等専門学校有識者懇話会を設置して、本校の教育研究活動、学生支援・指導、地域連携及び管理運営について助言を得ることで、効率的かつ効果的な学校運営に努めています。

本校では本報告書を活用して教育研究活動の改善・充実を図ることで、本校の教育研究の質の向上に努めていきます。

令和2年3月

津山工業高等専門学校長
磯山 武司